

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	言語科学論		
英文授業科目名	Linguistic Science		
開講年度	2004年度	開講年次	3, 4年次
開講学期	6, 8(5, 7)学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	廣瀬 友紀		
居室	東1-803		

公開E-Mail	授業関連Webページ
hirose@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
言語というシステムとそれを獲得・利用する人間の心内のしくみについて理解を深める

【前もって履修しておくべき科目】
特になし。逆に、「対照文法論」をすでに履修した学生は履修不可

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

この授業であつかう「文法」とは、皆さんの頭の中にインストールされている「ことばというシステム」という広い意味でとらえたものです。これはたぶん皆さんが高校までの学習経験に基づいて「文法」という言葉からイメージするものとは違う範囲のものでしょう。「ことばというシステム」そのものについて考えるわけですから、音のレベル、構文のレベル、意味のレベル、社会との関わり、そして、我々人間自身との関わり、などすべてが考察の対象です。

とはいっても1学期間ですべてみることはとうていできません。この授業では、文（構文）レベル・単語レベル・音声レベルからそれぞれ少しずつ題材を選んで、それを使う人間とのかかわりや、いろいろな言語における違いや共通点について考えてみることにします。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

授業内作業およびほぼ毎週のミニレポート

【オフィスアワー：授業相談】

随時。メールでアポイントメントをとってください。

【学生へのメッセージ】

(例)

「もの作り」にたずさわる人にとっては勿論のこと、たとえハードウェアを扱わなくてもシステムの動作原理を理解し、発展させるためには、電子回路の基本を十分理解している必要がある。授業中に一つずつしっかり理解していけば、難しい内容ではない。

【その他】

H14まで開講されていた「対照文法論」をすでに履修した人は、履修できません。